

QSK 福精連

公益社団法人福岡県精神保健福祉会連合会
〒812-0046
福岡県福岡市博多区吉塚本町13-50
電話092-292-0560 FAX092-292-0561
e-mail: fksr1974@fukuseiren.com
ホームページ http://www.fukuseiren.com/
No. 117 令和6年4月1日



第26回通常総会(予算)が吉塚合同庁舎にて開催されました。冒頭、橋本会長の開会挨拶では、令和6年度は福精連創設50周年という佳節の年。これまで支えて下さった関係者の方々へ感謝を述べる式典を開催したい。また、みんなねつと九州沖縄ブロック大会が福岡で開催(11月21、22日)される為、多く参加、協力をお願いしました。議長に陣内理事を選出し、議事に入りました。第1号議案で令和6年度事業計画と行事計画案、第2号議案で令和6年度予算案、第3号議案で令和6年度資金調達及び設備投資の見込み(予定なし)が提案され質疑応答の後、採択されました。

第2部では2月27日衆議院予算委員会では立憲民主党の田嶋議員が国土交通省へ質問(意見)された動画を視聴しました。精神障がい者だけ交通運賃割引がないのは障害者差別解消法の合理的配慮義務違反になるのではないかと。それは差別だ。とはっきり述べられ、精神障がい者の交通運賃割引実現に向け期限を定め動くよう、国が真剣に取り組むべきだと述べられました。視聴された方々も自分たちが思っていることをズバット言って頂け嬉しいと話されました。これを機に少しでも進展することを期待したいです。福精連としても、引き続き、JR九州や九州運輸局へ要望していきます。

通常総会(予算) 3月22日

第26回通常総会(予算)が吉塚合同庁舎にて開催されました。

冒頭、橋本会長の開会挨拶では、令和6年度は福精連創設50周年という佳節の年。これまで支えて下さった関係者の方々へ感謝を述べる式典を開催したい。また、みんなねつと九州沖縄ブロック大会が福岡で開催(11月21、22日)される為、多く参加、協力をお願いしました。議長に陣内理事を選出し、議事に入りました。第1号議案で令和6年度事業計画と行事計画案、第2号議案で令和6年度予算案、第3号議案で令和6年度資金調達及び設備投資の見込み(予定なし)が提案され質疑応答の後、採択されました。

みんなねつと九州・沖縄ブロック大会IN鹿児島



令和5年度九州・沖縄ブロック家族会鹿児島大会へ出席しました。今回の鹿児島大会のスローガンは「語り合い 学びあい 支えあい」そして「働きかけます」でした。大会当日は(通称)かせいれんの方々の熱意が感じられました。基調講演に新阿武山病院 院長岡村武彦先生に依る「スポーツがもたらす心の病を回復する力」、特別報告としてラゲナー診療所 院長森越まや先生の「病の体験を言葉にして生きる力に変えよう」を聴講いたしました。先生の講話の中にイタリア地域精神医療の話があり、福精連からイタリアへ地域精神医療の視察に行った情景を思い出しました。両先生のお話は実体験を通してのお話でした。その後、みんなねつと岡田理事長より活動報告がありました。その中で活動報告が、みんなねつと誌の購読数が年々減少している旨の報告があり、私たち会員一人ひとりが考えなければならぬ事だと実感致しました。「皆さんもうひと頑張りしてみませんか、どげんかせんといかんよ。」懇親会では、各県の報告や出し物があり、朝、新幹線後船小屋駅10時01分から始まった1日がアツクと言う間に終わりました。2日目は鹿児島大学大学院教育学研究科 教授橋口知先生より令和4年度から高等学校保健体育の中で「精神疾患の予防と回復」という項目でうつ病、統合失調症、不安症など具体的な精神疾患について学習が行われている報告がありました。心の健康教育の一環として学校教育の場で取り上げられ、子供たちが精神疾患について学ぶことで、これから期待されるお話でした。話は変わりますが、大会中、私の10歳年上の兄が発症した当時を思い出さずには居られませんでした。行き場(居場所)のない兄は13年間入院を繰り返しました。先生方の話を聞くにつれ、世の中変わりつつあるのだなと発症した当時行く場所もなく、偏見と差別に左右され悶々として入退院を繰り返していた兄に、帰りの新幹線の中で、一度帰宅しては如何かと空に問いかけました。有意義な鹿児島大会でした。福精連理事 山口 由紀子

令和5年度九州・沖縄ブロック家族会鹿児島大会へ出席しました。今回の鹿児島大会のスローガンは「語り合い 学びあい 支えあい」そして「働きかけます」でした。大会当日は(通称)かせいれんの方々の熱意が感じられました。基調講演に新阿武山病院 院長岡村武彦先生に依る「スポーツがもたらす心の病を回復する力」、特別報告としてラゲナー診療所 院長森越まや先生の「病の体験を言葉にして生きる力に変えよう」を聴講いたしました。先生の講話の中にイタリア地域精神医療の話があり、福精連からイタリアへ地域精神医療の視察に行った情景を思い出しました。両先生のお話は実体験を通してのお話でした。その後、みんなねつと岡田理事長より活動報告がありました。その中で活動報告が、みんなねつと誌の購読数が年々減少している旨の報告があり、私たち会員一人ひとりが考えなければならぬ事だと実感致しました。「皆さんもうひと頑張りしてみませんか、どげんかせんといかんよ。」懇親会では、各県の報告や出し物があり、朝、新幹線後船小屋駅10時01分から始まった1日がアツクと言う間に終わりました。2日目は鹿児島大学大学院教育学研究科 教授橋口知先生より令和4年度から高等学校保健体育の中で「精神疾患の予防と回復」という項目でうつ病、統合失調症、不安症など具体的な精神疾患について学習が行われている報告がありました。心の健康教育の一環として学校教育の場で取り上げられ、子供たちが精神疾患について学ぶことで、これから期待されるお話でした。話は変わりますが、大会中、私の10歳年上の兄が発症した当時を思い出さずには居られませんでした。行き場(居場所)のない兄は13年間入院を繰り返しました。先生方の話を聞くにつれ、世の中変わりつつあるのだなと発症した当時行く場所もなく、偏見と差別に左右され悶々として入退院を繰り返していた兄に、帰りの新幹線の中で、一度帰宅しては如何かと空に問いかけました。有意義な鹿児島大会でした。福精連理事 山口 由紀子



年間「みんなねつと誌」を購読しませんか?

賛助会費(購読料を含む)
個人 年間3,600円
※団体は一部還元があるのでお問い合わせを

郵便振込先
加入者名 みんなねつと
口座番号 00130-0-338317

電話番号 03-6907-9211



賛助会員加入のお願い

令和6年度の賛助会員の募集を行います。皆様のご協力よろしくお願い致します。

年会費: 個人 3,000円
団体 10,000円

郵便局振込先
加入名: (公社) 福精連
口座番号: 01760-7-84332

※賛助会費は確定申告の際の寄付金控除の対象になります。

福精連50周年記念式典 & 令和6年度 みんなねつと九州・沖縄ブロック大会IN福岡

日程: 11月21・22日(木・金)
会場: 福岡県中小企業振興センター(福岡市博多区吉塚本町9-15)
テーマ: 未来をひらく ~これからの地域ケア~

現在大会に向け準備中です。チラシができ次第ご案内致します。



行事案内

- 【第1回 理事会・執行役員会】令和6年5月9日(木)
- 【第2回 理事会・総会】令和6年5月24日(金)
- 【第1回 家族職員研修会】令和6年6月21日(金)
- 【運営委員会】令和6年7月12日(金)
- 【みんなねつと全国大会】北海道 令和6年10月12日(土)
- 【福精連50周年記念式典 みんなねつと九州大会】福岡市 令和6年11月21・22日(木・金)

※会場が未定の会議、研修会については、当会からの案内をご確認下さい

令和5年度賛助会員のみなさま

- 〈団体会員〉 (敬称略・順不同)
- 医療法人富松記念会 三池病院
 - 福岡浦添クリニック
 - パナソニック松九会
 - 鍼灸の郷・匠
 - 医療法人同仁会 乙金病院
 - 社会福祉法人 多々良福祉会
 - 医療法人 かなめクリニック
 - 一般社団法人 QIACT
 - 医療法人信和会 大牟田保健院
 - 医療法人社団桜珠会 可也病院
 - 医療法人 みらい 筑紫野病院
 - 福岡あけぼの会後援会
- (下記へ続く)



令和5年度賛助会員のみなさま 続き

- 〈個人会員〉
- 上島 茂幸
 - 藤 みよ子
 - 石河 定子
 - 樋口 靖則
 - 石田 健治
 - 田原 恭子
 - 山口 由紀子
 - 廣津 輝男
 - 中里 真一
 - 神谷 真幸
 - 富松 幸
 - 佐々木 寿美
 - 田川 裕二
 - 菅 理恵
 - 金子 由紀子
 - 馬場 由紀子
 - 今村 浩司
 - 野田 敏之
 - 一木 猛
 - 石河 久子
 - 鈴木 清隆
 - 白石 雄二
 - 一木 浩
 - 土肥 光
 - 齊藤 忠之
 - 坂本 さつき
 - 福田 清隆
 - 野田 重信
 - 立山 利博
 - 松岡 千代
 - 山本 由美
 - 菅野 康子
 - 富松 佳代子
 - 平山 一雄
 - 古屋 岳治
 - 富田 義光
 - 大東 義史
 - 小野 加津代
 - 伊原 未沙貴
 - 乙村 マリコ
 - 石飛
 - 本田 俊恵
 - 井上 暁子
 - 斉藤 光
 - 石田 健治
 - 満嶋 いち子
 - 本田 俊恵
 - 井上 雄一
 - 辻橋 恭一
 - 川口 千利
 - 徳久 照生
 - 阿部 利民
 - 戸部 俊彦
 - 下川 展弘
 - 原 久美
 - 川本 敏裕
 - 六反 孝行
 - 一ノ瀬 章江
 - 松本 章江
 - 木原 聡大
 - 永末 雄大



【編集】公益社団法人 福岡県精神保健福祉会連合会 〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 6F
【発行】QSK九州障害者定期刊行物協会 〒812-0068 福岡市東区社領1丁目12番4号
【年会費】3,000円(購読料含む) 定価100円

この機関紙【福精連】は、共同募金の配分金によって作成されたものです。



家族職員研修会〜家族が元気で



令和6年1月24日ひきこもりの人への理解や家族による支援の重要性について九州大学大学院の加藤隆弘准教授をお招きし研修会が開催されました。

まず、アメリカと日本のひきこもりの現状(米・ひきこもりでない)、支援に至るまでに長い時間がかかっている実態を示し、家族が最初の支援者として当事者を支えるための手だてや心構えを学びました。

加藤先生は、ひきこもりが始まってから支援につながるまでの期間は平均で4・4年というデータを紹介し、周囲の偏見や知識不足などが背景にあると指摘。統合失調症やうつ病などの精神疾患が原因になることがあり、診断されない場合でも何らかの心の苦しみを抱えている可能性もある。できるだけ早く病院を受診するよう呼びかけました。

家族に向けては、**あいさつの大切さ**を強調した。「まずはあいさつ。次に、声かけの種類を増やすなど具体的な階段を作り、一段ずつ登っていくことが大切」と回復を急がないようアドバイスし、「家族からは『どうやって外に出れるのか、どうしたら働けるのか』などと聞かれるが、そこは最後のステップ」と話されました。

また、話す際は「わたし」を主語にして話したり、例「(私は)こう思うんだけど・・・」「みんな」「ふつう」という言葉を極力使わない。とコミュニケーションのポイントを学びました。

当事者と向き合う家族の心構えについては、「**家族が元気を取り戻すことが支援の第一歩。心にゆとりを持って本人と接してほしい**」と述べられました。今年一番の寒気の中、会場いっぱいに参加者が集い、講演後には話を聞いて良かったとお声が皆様からありました。



精神保健福祉家族研修会

12月6日福岡県精神保健センターと共催で研修会を開催しました。やきつべの怪診察所夏莉郁子先生を講師に迎え「精神を患うってどんな事?もしあなたがご家族が精神を患ったらどうしますか」と題してオンラインで講演されました。



冒頭、母の病気で自身も心を病み、当事者・家族の立場を経験した旨、これらの事を公表するに至った経緯を話されました。その中で「**語ることは回復に不可欠です**」と話され、医師として「患者・家族」の思いを医師に、医師の気持ちとして「患者・家族」に伝える取り組みを入れていけると語られました。また、「**人は何歳からでも進化できる**」と当事者、家族の為に体现されている先生。

現在は、精神科の入院患者への措置が適切かを審査する「精神医療審査会」の委員としても活動され、当事者や家族の委員の常設を目指されていることも紹介されました。

以前夏莉先生が「**人が回復するのに締め切りはありません**。患者家族が結婚し、その子どもが幸せになることを積み重ねていけば、社会の偏見や認識も変わっていくと思います。心の病は『あなたの人生のどこかで出会う病』です。自分だけではなくても、身内や子どもがなるかもしれない。そういう目で、精神疾患を理解してもらいたいです」と話されました。高校教育でも始まりましたが、正しく病気について学び、理解を示して下さる方が一人でも増えることを拙に願いたいと思います。

「能登半島地震」〜義援金の受付

第2次受付4月1日から6月30日

みなさまのご支援ご協力をお願い致します。

〇義援金口座

【ゆうちょから入金】 記号:10160

番号:02155921

【他行から入金】 ゆうちょ銀行

【店名】 〇一八(ゼロイチハチ)

【店番】 018 【預金種目】 普通預金

【口座番号】 0215592

【名義】 公益社団法人全国精神保健福祉会連合会

シャゼンコセインケンワクカレノカ



実際現地へ行かれた情報を少し掲載します。

一階部分が崩れた家が軒並み散見。

土砂崩れで家が埋もり屋根も何も見えない地帯。

焼け野原に花が手向けられている。

被災を受けた方々はその状況の中で事業を再開していました。支援法では救えない運営状況を目の当たりにしました。

グループホームとて 村上大作

第10回はまゆう講演の集いを開催

去る2月4日、はまゆう福祉会主催の第10回はまゆう講演の集いを水巻町保健福祉会館「いきいきホール」にて開催しました。地元の松本國寛県議員、水巻町社会福祉協議会の船津幸会長はじめ近隣地域の県・町議会議員、町福祉課職員並びに郡内4町の民生委員・児童委員協議会の皆様や保護司会の皆様を含め、100名の方々にご参加いただきました。

今回は、シンポジウム形式で行い、「精神障がいがある人の家族の思い」をテーマに、西南学院大学保健福祉学部教授の今村浩司先生をコーディネーターに迎え、はまゆう家族会会員3名による「親なきあとを考える」「精神科医療に思うこと」「当事者の生活困窮の現状を考える」「親あるうちにやることを考える」という4つのテーマで、それぞれ発表しました。

発表者が話す中で、当時のつらさや苦しさは改めて鮮明に思い出されるのでしよう、思わず声を詰まらせることが度々あり、聴衆の方々も思わずもらい泣きをされる場面もありました。家族会関係者以外、このような当事者の家族の思いを聞く機会は、なかなかありませんので、今回参加された方々の心に何かしら残ったのではないかと思います。

今回のような当事者の家族の思いを直接聞ける会が各地で開催されていけば、当事者やその家族への理解がより深まり、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる共生社会の実現の一步になるのではないかと思います。



はまゆう家族会
副会長 松鶴 順一郎

谷口仁史氏の講演会に参加して



去る3月2日、みずまき社会福祉法人ネットワーク主催による地域貢献事業講演会に佐賀県認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイスの代表谷口仁史を講師に迎えて開催しました。

谷口氏はご存じと思いますが、若者のひきこもり支援に取り組まれており、NHKテレビ番組「プロフェッショナル「仕事の流儀」」でも紹介された方です。

講演は、「訪問支援と重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチ」と題して、深刻化が懸念される社会的孤立の現状と課題に始まり、佐賀県が取り組んでいる「ワンストップ型(ハローワークと県市町村が連携して行う支援事業)相談サービス」の紹介、**チームでアプローチすることの重要性**、誰一人取り残さないための「協働型・創造型の取組」についての話を事例を通してわかりやすく説明されました。話の中で「**価値観のチャンネルを合わせる**」という一言は、大変大事なことでと痛感しました。

ここで「みずまき社会福祉法人ネットワーク」について説明させていただきます。

R5年度相談電話集計表

	月	夜間・休日	平日3日
R5. 4月		804	92
5月		785	72
6月		759	68
7月		759	69
8月		750	60
9月		729	63
10月		732	61
11月		752	73
12月		765	66
R6. 1月		790	76
2月		750	73
合計		8,375	773

心の相談電話

今年度も多くのご家族、当事者の方からお電話を頂きました。相談電話から家族による家族学習会や家族会に繋がった方もいます。一人で抱えずお電話ください。

【相談時間】 13時～16時

・月曜日 090 (1366) 7498

・火曜日 080 (3986) 1980

・水曜日 080 (1729) 1950

・木曜日 080 (1729) 1950

・金曜日 080 (1729) 1955

・土・日曜日・祝日 9時～16時

080 (1729) 1955

・夜間 (17時～翌朝8時)

080 (1729) 1950

※令和6年4月からのチラシを付録にて同封しております。

当団体は、水巻町内にある社会福祉法人6団体で構成され、社会福祉協議会を中心に社会貢献事業を行っています。講演会のほか「ふくし総合相談」「ふくし出前講座」「ヤングケアラー啓発」「子ども笑顔プロジェクト(フードドライブ)」「災害停電時スマートフォン等充電ステーション」「地域の安心パトロール」等の事業を実施しています。これからも地域とのつながりを大切にしてまいります。



はまゆう福祉会 理事長 檜橋 恭一